

資産運用の読み物

経済・投資のあんちょこ



VOL.10

農漁業の6次産業化って、どういうこと？

今回の話題

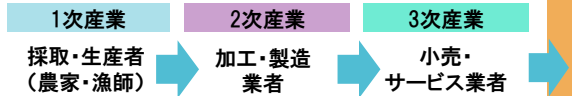
最近、自家栽培の農産物を使ってジャムやジュースといった製品に加工し販売する農家が増えています。この背景にあるのが、「農漁業の6次産業化」です。1次産業（農漁業）、2次産業の（加工・製造業）、3次産業（小売・サービス業）ではなく6次産業とは、どんな産業なのでしょう？

地方経済の活性化に期待

- 6次産業とは、農家や漁業など1次産業者が、加工・製造、小売・サービスと、2次産業、3次産業までの事業に総合的にかかわることです。3つの産業が包括的につながることから、1(次)×2(次)×3(次)=6次産業と言われます。
- 例えば農業では、形がふぞろいで流通できない作物を自ら加工品にして付加価値を付けて販売したり、直営のレストランを運営するなどが挙げられます。漁業でも、直営レストランのほか、漁業体験やダイビング、旅館・民宿など、広い意味での観光業を手掛ける例が出てきています。また反対に、3次産業の飲食業が質の高い食材を低コストで消費者に提供するために、1次産業の農畜産業や漁業に参入するといった例もあります。
- 農漁業の6次産業化が進むと、地域経済が活性化し、ひいては日本の農漁業の国際競争力を高めることが期待されます。国際競争力が高まれば輸出が拡大して、産業全体が成長していくと考えられます。

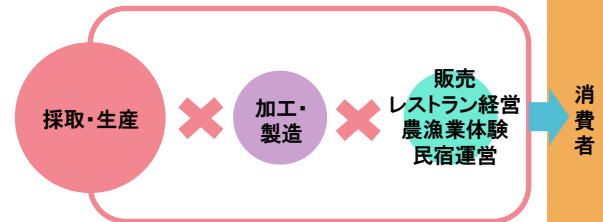
■ 1次産業から3次産業までの流れ

通常

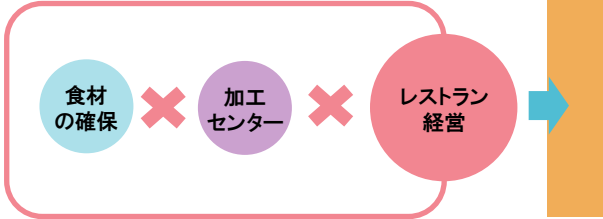


6次産業化のイメージ

農家・漁師からの参入例



飲食業からの参入例



Point

6次産業とは、農漁業の1次産業、加工・製造業の2次産業、小売・サービス業の3次産業を包括して展開すること。その結果、国際競争力の向上が期待されます。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。